

Title	第二回早慶連合史學講演会會；三田史學會例會報告
Sub Title	
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	1955
Jtitle	史学 Vol.28, No.2 (1955. 9) ,p.144(276)- 146(278)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	彙報
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19550900-0144">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19550900-0144</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

(源福寺跡)へ行つたが、鬱葱とした木立の中にあり落葉で礎石も見失われがちであつた。その後、隱岐神社にお詣りし、城山を踏査し、菱浦に歸り、一時すぎ汽船にて對岸別府村の黒木御所に行く。ここも後醍醐天皇行在所跡と傳えられる地であるから、國分寺以來是非行きたいと思つていた所である。小高い丘の上にあつて、黒木神社は小さな神社で、黒木御所跡の碑が立つている。別府についたのが一時半頃であつたが、その日の宿泊地浦郷へ行くバスが二時(しかもこれが終發なのである)に出るのでゆつくりしてはいられなかつた。隱岐の交通の便はすべてこの調子である。後でできたことであるが、このバスは戦時中の病院車を改装したものだそうである。それにしてもひどいものを病院車にしていたものだと思わざるを得ない。島は大體半農半漁と聞いたが、道は畑と海に沿つてずっと續いている。浦郷に着いて早速旅館を探したが、西郷に比べればやゝと云うより相當に邊鄙な所なので旅館も三、四軒しかないのである。しかも翌晩祝言があるとか、法事があるとか、主人が留守だとか、狭いからとか云つて斷られたが、とにかく一泊して、翌十一日朝、第二隱岐丸に乗つて本土に向つた。快晴で海上は全く静かで船もゆれず午後一時半頃久しぶりに地方の土を踏んだのである。

(今無畏子記)

### 第二回早慶連合史學講演會

昭和二十九年十一月二十日 於三田演說館  
講演者

エデプトとスーダン

早大教授 定金右源二氏

古代船の發見

本塾教授 松本信廣氏

(共に幻燈使用)

會終了後、第三會議室に於て懇親會が催され、兩校の教授以下多數が出席して盛會裡に歡を盡して午後八時散會した。

### 三田史學會例會報告

#### 第四三〇回例會

昭和三十年一月二十八・二十九日兩日午後一時より 於演說館

國史學科

親鸞上人

平尾 雅之

吾妻鏡と北條氏の他氏族排斥について

高橋 正彦

建長寺開創の意義

石井 要一

吉田神道についての一考察

中山 善衛

中世封建制における農民負擔に

關する歴史的考察

加藤 堯士

封建社會と長子相續制

——室町を中心として——

信長政權確立途上に於ける一向一揆の役割

小笠原諸島の發見について

元祿時代の町人と歌舞伎

江戸時代の町人階級の道德思想

參勤交代制度改革意見に關する一考察

輪島漆器發展の原因

薩摩藩に於ける天保の改革

井伊家文書より見たる安政大獄の發端

——繼嗣問題を中心として——

五品江戸廻品令に關する一考察

幕末に於ける開國と岩瀬忠震

慶應期の諸問題

三浦乾也

——幕末より明治初期にわたる

文化史の一斷面——

加波山事件

——自由民權における一考察——

第一次世界大戰と日本の參戰

棚橋 嘉勝

早川 竹子

柴山 節子

中島利一郎

關口 直久

木村 博

高橋 一郎

森川英太郎

成田 益規

豊田 經一

西村 丈

山田 忠雄

島田 徳子

水谷 紀子

川下 俊昭

東洋史學科

東亞の有肩石斧

唐代中國のネパール地志の系譜

ヒマラヤ交通路の歴史的展開

——唐代ヒマラヤ越え——

元朝警察制度について

望夏条約締結以前に於ける米華關係

西洋史學科

アウグスティヌス「神の國」に於ける

神の國の構造について

初期ブリタニア教會に於ける

復活日について

アルプスの歴史的地位

宗教改革とその近代的意義

ダリアンに於ける Vasco Nun ez de Balboa

アメリカ植民地時代初期に於ける

中部植民地移住民の狀態

ロックの政治思想と一六八八年の革命

笠津 備洋

原 輝彦

神戸 常雄

富田 一郎

末富 十檀

副島 伸子

竹内謙太郎

木村 泰助

高橋 吉雄

岩淵 功

深澤 幸雄

伏原順一郎

マサチューセツツ灣植民地初期の

ピューリタン政治に關する一考察

獨立革命と奴隸制度

ベルリン勅令を中心とする

コンチネンタルシステム

産業革命とイギリス勞働問題

デイスレリー——政治思想の一側面

南北戰爭の原因

アメリカ奴隸問題と南北の對立

アメリカ革命

——その經濟的社會的原因——

初期フエビアン協會の規本的方向

ヴェルサイユ條約以降の

外交についての一考察

ミュンヘン協定と

チエツコスロヴァキアの崩壞

ルーズベルト登場の歴史的背景

——資本獨占化と共和黨政策——

イギリス文學に現われた

ユートピア思想とその背景

龜田 政弘

金子 嘉久

直井 弘

杉井 揚夫

鈴木美佐子

安藤 滿

岩崎 長光

塚田 佳昭

江平 和彌

石原 康邦

齋田 蒸治

根村 當彌

切通美智子

「西歐の没落」に於ける歴史の形態と

シュペングラの知的背景

ルソーと歴史

ダーウインの思想の本質と

その人文科學に與へた影響

第四三一回例會

四月十六日午後三時 於一〇一番教室

狂言の發達

第四三二回例會

五月十八日午後三時 於三三番教室

ヂンギスカンと怪獸

第四三三回例會

六月二十二日午後三時 於四十番教室

ジョン王の再評價

八幡宇佐官御託宣について

豐田 一夫

杉山 善彦

木戸 敏郎

太田 次男氏

前島 信次氏

森岡敬一郎氏

佐志 傳氏